

2016 年度 島根大学教育学部・学部長裁量経費プロジェクト

中山間地域での小中学生・夏休み学習支援

1 概要

本企画は、中山間地域にあって学習塾等の存在しない浜田市弥栄町で、地元の方々と連携しながら、小中学生向けの夏休み勉強合宿に参加し、当地の児童生徒の学習支援を行うものです。

2 参加者

島根大学教育学部からは、初等教育開発・自然環境教育・言語教育（国語）・共生社会教育・人間生活環境教育・音楽教育所属の1～2回生が10名と、引率教員1名が参加しました。

合宿の運営には安城公民館をはじめとする地元の方が当たってくださり、児童生徒は17名の参加がありました。

3 日程

2016年8月17日（水）から19日（金）の日程で開催しました。

4 活動の様子



勉強場所と宿泊場所は、浜田市弥栄町の弥栄会館です。子どもさんたちとの顔合わせの場面です。



勉強をしている場面です。学生は、それぞれの児童・生徒から話を聞いたり、勉強のようすをみながら、アドバイスをを行っています。



地元の学校支援員の方との打ち合わせ風景です。

二泊三日の日程の中、子供の取り組みのようすをみながら、勉強のメニューや指導のしかたを適宜検討します。



食事は、地元住民のかたがたが毎食作っていただきました。使っている食材の多くも、弥栄で採れた新鮮な野菜やお米です。



自然環境教育専攻の学生を中心に、学生が企画してくれた、「傘袋ロケット」体験活動のようすです。子どもが自分で作ったロケットを、工夫して飛ばしています。よく飛んだ子は、賞品ももらえました。



レクリエーション企画として、地元住民のかたがたとのグラウンドゴルフ大会もありました。学生の成績の方は、残念ながら、地元の達人たちには歯が立たなかったようです。

5 プロジェクトの成果

このところ、継続して行っている夏休み学習支援活動でしたが、本年度は参加人数としてもいっそう規模を拡大して開催することができました。

弥栄の子どもは、ふだんは大学生と接する機会が少ないということです。今回の合宿をきっかけに、地元の大学である島根大学の学生に親しみを感じてもらうとともに、自分自身の将来について高い希望を持ってもらえたらと思っています。

参加した学生には、みっちり三日間、子どもに勉強を教える機会として、とても良い体験になりました。松江市内ともまた状況が異なる、石見の中山間地域で教育経験を積んだことにも意味があります。また、食事の用意やお風呂までの送り迎えなども含め、子どもたちのためにこの合宿を支えていた地元の方々の暖かい気持ちに触れて、地域に対する理解が深まったことと思います。

地域の方のご理解とご協力なくしては不可能な企画です。安来公民館の岡本薫さん、大塚美穂さん、学校支援員の隅田恵理子さんをはじめ、準備・運営にご尽力下さった地元の方々に感謝申し上げます。これからも島根大学教育学部として、こうした地域との連携活動を深めていきたいと思えます。

(文責：共生社会教育講座 諸岡了介)